

平成30年度 周南市友好親善訪問団報告書 (オーストラリア・タウンズビル市)



周南市
SHUNAN CITY

ご挨拶



周南市では、姉妹都市交流事業の一環として、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな人材を育成することを目的に、青少年等を姉妹都市へ派遣する事業を行っております。

平成30年度は、オーストラリア・タウンズビル市へ中学生10名、高校生5名、市職員1名の計16名を派遣しました。タウンズビル市への訪問は、平成2年の姉妹都市提携以来、今回で19回目となります。

団員達は、事前研修会にて、タウンズビル市について学んだり、語学研修を受講したりすることで、訪問に向けて準備を行い、期待と不安を胸に出発しました。

現地では、ホストファミリーをはじめ、多くの方々とのふれあいを通して、オーストラリアの歴史や文化、生活様式などを学ぶとともに、日本の文化を伝えるなど、積極的に交流を深められました。

この報告書は、こうした団員達のかげがえのない貴重な体験や感動をありのままに綴ったものです。

団員として参加された皆さんには、タウンズビル市で出会った方々との絆を大切にしてください、末永く交流を続け、両市の友好の懸け橋となっただきたいと願っております。

また、この度の経験を通して得られた自信や学びを、自らの成長の糧とされ、将来、国際化社会の中で活躍されることを期待しております。

終わりに、本事業の実施にあたり、ご協力とご支援を賜りました学校関係者や保護者の皆様、タウンズビル市役所、ライアン・カトリック・カレッジ、さらには、団員を温かいおもてなしで受け入れていただきましたホストファミリーの皆様にご心から感謝申し上げます。

周南市長 **木村 健一郎**

Australia Queensland オーストラリア クイーンズランド州



タウンズビル市について

市の概要

タウンズビル市は、オーストラリアの北東部に位置する港湾都市で、クイーンズランド州では、州都のブリスベンに次ぐ第2の都市です。

農業や鉄工業で栄える一方、農・鉱産物の積出港として、重要な役割を果たしてきました。

1896年当時、約3,000人の日本人が真珠採取やさとうきび栽培で北部クイーンズランドに出稼ぎに来ていたことから、日本政府がオーストラリアで最初の本格的な領事館を開設した都市です。

市街地には、公園や街路樹が整備され、美しい町並みを形成しており、観光地としては、サンゴの生息する水族館やリゾート基地としてのマグネティック島などがあるほか、世界最大の珊瑚礁があるグレート・バリア・リーフへの玄関口でもあります。

- 人口／約18万人
- 面積／約3,733km²
- 言語／英語
- 通貨／オーストラリアドル(AUD)
- アクセス／ブリスベンから飛行機で約2時間、シドニーから飛行機で約3時間

姉妹都市提携までのあゆみ

旧徳山市では、「英語圏との姉妹都市交流で一層の国際化を図りたい。」という、市民の声を受け、昭和62（1987年）から相手先として、オーストラリアをはじめ、アメリカやカナダなどの諸都市について検討を始めていました。こうした中、平成元年（1989年）に市内の企業を通じオーストラリアのクィーンズランド州政府駐日代表からタウンズビル市の紹介がありました。

その後、双方で検討の結果、平成2年（1990年）9月30日にタウンズビル市長をお迎えし、姉妹都市提携の調印を行いました。

平成15年（2003年）4月21日、2市2町が合併して、新しく周南市が誕生した後も引き続き交流を続けることとし、同年10月10日、周南市長一行がタウンズビル市を訪問し、再調印を行いました。



概略日程

| 月 日 | 現地時間 | 日本時間 | 発着都市名 | 日 程 |
|--------------|--|--|----------------------|---|
| 8月15日 (水) | 15:25 20:20 | 6:33 10:00 16:25 21:20 | 周南市 福岡市 シンガポール | 徳山駅発 福岡空港発 シンガポール・チャンギ国際空港着、乗り換え シンガポール・チャンギ国際空港発 (機内泊) |
| 8月16日 (木) | 5:55 終日 | 4:55 | シドニー | シドニー国際空港着、入国手続き シドニー市内視察(オペラハウス、ハーバーブリッジ、ミセスマッコリーズポイント、ロックス等) (ホテル泊) |
| 8月17日 (金) | 9:50 12:40 13:15 15:00 16:30 | 8:50 11:40 | タウンズビル | シドニー国際空港発 タウンズビル空港着 HQ水族館見学 タウンズビル市長表敬訪問 ホストファミリーと面会 (ホームステイ) |
| 8月18日 (土) | 終日 | | | ホストファミリープログラム (ホームステイ) |
| 8月19日 (日) | 終日 | | | ホストファミリープログラム (ホームステイ) |
| 8月20日 (月) | 午前 午後 | | | ライアン・カトリック・カレッジ訪問 歓迎会、校内視察 英会話授業 生徒との交流活動 (ホームステイ) |
| 8月21日 (火) | 午前 昼食 午後 | | | ビラボン・サンクチュアリ(動物園)視察 ライアン・カトリック・カレッジ訪問 英会話授業 お別れ会 生徒との交流活動 (ホームステイ) |
| 8月22日 (水) | 11:35 13:25 18:00 | 10:35 12:25 17:00 | ブリスベン | タウンズビル空港発 ブリスベン空港着、乗り換え ブリスベン空港発 (機内泊) |
| 8月23日 (木) | 0:15 1:20 | 1:15 2:20 8:35 11:05 12:21 | シンガポール 福岡市 周南市 | シンガポール・チャンギ国際空港着、乗り換え シンガポール・チャンギ国際空港発 福岡空港着、博多駅に移動 博多駅発 徳山駅着 |

平成30年度友好親善訪問団 団員名簿



12 ページ 周南市立住吉中学校 1年
K. A.
※本人の希望によりイニシャルで表記しています。

28 ページ 周南市立岐陽中学校 2年
伏谷 実 Minori Fushitani

14 ページ 周南市立桜田中学校 2年
佐藤 嵩仁 Takahito Sato

30 ページ 山口大学教育学部附属光中学校 2年
美安 萌乃 Moeno Miyasu

16 ページ 周南市立菊川中学校 3年
末次 理子 Riko Suetsugu

32 ページ 山口県立下松高等学校 2年
石井 日菜乃 Hinano Ishii

18 ページ 周南市立桜田中学校 3年
多嶋田 千裕 Chihiro Tashimada

34 ページ 山口県立下松高等学校 2年
大庭 優花 Yuka Oba

20 ページ ノートルダム清心中学校 2年
中村 香南子 Kanako Nakamura

36 ページ 山口県立華陵高等学校 2年
黒木 奏美 Kanami Kuroki

22 ページ 周南市立周陽中学校 1年
橋本 紗良 Sara Hashimoto

38 ページ 山口県立徳山高等学校 1年
下田 大雅 Taiga Shimoda

24 ページ 周南市立住吉中学校 3年
橋本 芽姫 Mei Hashimoto

40 ページ 山口県立熊毛北高等学校 2年
山崎 凜花 Rinka Yamasaki

26 ページ 山口大学教育学部附属光中学校 2年
福谷 眞生 Mao Fukuya

42 ページ 周南市高齢者支援課
渡辺 佳奈恵 Kanae Watanabe

(中・高生 五十音順)

友好親善訪問団活動の様子

【オーストラリア タウンズビル市 平成30年8月15日～23日 8泊9日】

記：周南市友好親善訪問団 団長 渡辺 佳奈恵

8月15日(水)

この日は朝6時半に徳山駅を出発し、福岡空港から乗り継ぎのためシンガポールのチャンギ空港に向かいました。機内では、夏休みの宿題をしている団員や、映画や音楽を聴いてリラックスしている団員など、それぞれ自由に機内で過ごしました。チャンギ空港では乗り継ぎまでの時間に空港内を散策したり、買い物をしました。また、添乗員さんからオーストラリアへの持込物の注意事項や入国審査カードの書き方の説明があり、団員は真剣に話を聞いていました。20時20分にチャンギ空港を出発し、約7時間半のフライトのため、機内泊になります。団員たちは機内食を食べ、就寝しました。



出発の朝。少し緊張した面持ちのように感じました。

8月16日(木)

朝6時前にシドニー空港に到着しました。オーストラリアは固有の植物や動物を保護するために持ち込みが禁止されている物が多くあるため、団員達は検査などにとってもドキドキしていましたが、無事に全員入国できました。この日は1日シドニー市内の視察なので、現地の日本人ガイドの方に案内してもらいながら、ボンダイビーチ、ミセスマッコリーズポイント、オペラハウス、ハーバーブリッジ、セントメアリー大聖堂などの各名所を訪れました。



チャンギ空港のマーライオン像の前で。



シドニー市内を視察した後、約1時間半の自由時間を設け、それぞれ買い物を楽しみました。

今まで教科書等でしか見ることのなかったオーストラリアの壮大且つ美しい建造物に、団員全員が感激していました。

8月17日(金)

国内線の飛行機でシドニーからタウンズビルへと向かいます。タウンズビル市で最初に訪れたのは、リーフHQ水族館です。この水族館は、海に潜らなくてもグレート・バリア・リーフの生物を見られる水族館です。団員たちはヒトデやナマコ・サメの卵に触れるなどの体験を楽しんでいました。

その後、タウンズビル市議会議事堂にて、ジェニー・ヒル市長とアン・マリー・グリーン議員を表敬訪問しました。気さくな市長に団員達も安心した様子で、写真撮影を楽しんでいました。

表敬訪問後には、タウンズビル市のシンボルでもあるキャッスルヒルを訪れました。山頂からのタウンズビル市内の景色は本当に素晴らしく、大自然に囲まれた街の風景を一望できました。山と海に囲まれたこの風景は、「どこか周南市と似ているなー」と感じることができます。

午後5時頃にライアン・カトリック・カレッジに到着しました。バスを降りると、学校の入り口で各団員のホストファミリー達が待っていました。

団員は、緊張した様子で自分の名前を呼ばれるのを待ち、名前を呼ばれた団員から順番にホストファミリーと各家庭に帰って行きました。

これから5日間のホームステイが始まります。



シドニーで食べたフィッシュ&チップス



リーフHQ水族館の海中トンネル



タウンズビル市議会議事堂での歓迎会



キャッスルヒル山頂で撮った集合写真



いよいよホストファミリーと対面！

8月18日(土)、19日(日)

土日は、ホストファミリープログラムということで、それぞれ団員は自分のホストファミリーと過ごしました。

私も、ホストファミリーとトロピカルクイーンズランド博物館やマーケットに行ったり、バーベキューをして過ごしました。マーケットでは何人かの団員に偶然出会いましたが、みんなホストファミリーと楽しそうに過ごしている姿を見ることができました。



団員を代表して挨拶する石井さん

8月20日(月)

ホストスチューデントと一緒にライアン・カトリック・カレッジに登校しました。団員たちは、2日ぶりに話せる日本語に安心した様子で、土日に体験したことをお互いに楽しそうに話していました。

まず歓迎会があり、学校長から歓迎の言葉をいただいた後、ライアン・カトリック・カレッジの5年生の生徒から日本語で歓迎のスピーチをいただきました。訪問団からは、代表で石井日菜乃さんが英語でスピーチを行いました。とても上手な発音で素晴らしかったです。

それから、校内見学に行き、折り紙をライアンの生徒に教えました。鶴の折り方を教えている団員が多く、みんな身振り手振りで一生懸命教えていました。

その後、英会話の授業がありました。



折り紙を教える団員たち



ライアンの生徒と2人1組になって質問し合う団員たち

現地での授業はこの日が初めてということもあり、団員たちは少し緊張した様子でした。団員たちは2人1組でお互いのことを英語で質問し、みんなの前で相手について聞いたことを発表しました。

昼食は、それぞれホストファミリーが持たせてくれたランチボックスを食べました。

午後からは、日本語授業に参加して、日本語で質問をしたり、ゲーム形式でどこのチームが早く課題をクリアできるか競ったりと、団員もライアの生徒も双方がとても楽しみながら交流を深めていました。また、みんなで一緒にダンスをしました。

アフタヌーンティータイムという小休憩の後は、再び英会話の授業を受けました。

4つの動物のグループに分かれて、翌日のビラボン・サンクチュアリ視察でそれぞれの動物の生態について調べてくるように課題が出ました。団員たちは一生懸命、先生から渡された本を見て、どんなことを調べてくるかを考えてメモしていました。



8月21日(火)

この日は、ビラボン・サンクチュアリというタウンズビルの観光名所でもある動植物園に行きました。レンジャーの方と一緒に園内を廻り、ウォンバット・ヘビ・コアラ・クロコダイル・カンガルーの生態について説明を受けながらふれあい体験をしました。団員たちは、前日の英会話授業でそれぞれ課題が出ていたこともあり、レンジャーの方に積極的に質問をしてメモを取っていました。また、ふれあい体験では、ウォンバットのお尻を触ったり、ヘビを首に巻いたり、コアラを抱っこしたり、カンガルーに餌をあげたりと、日本では体験することのできない貴重な体験をすることができました。

ゲームをしたり、英語の曲のダンスを教えてもらったりしました。



代わる代わるコアラを抱っこしたり、蛇を首に巻いたりして楽しんでいました。

団員たちの本当に嬉しそうな顔がとても心に残っています。

学校に戻り、昼食後の英会話授業では前日の4グループに分かれて、午前中にビラボン・サンクチュアリで調べてきたそれぞれの動物の生態について話し合い、英語でまとめを行い、みんなの前で発表しました。最初の英語の授業のときと比べると遥かに英語の話し方も上達し、声も大きく出ていて、団員たちの成長を感じることができました。

この日のアフタヌーンティータイムでは、お別れ会が行われました。

カップケーキやキッシュなど食べ物が用意され、ホストファミリーや他の生徒たちと一緒に食事を楽しみました。その後、訪問団を代表して中村香南子さんが英語で感謝のスピーチを行いました。

スピーチの後は、福谷眞生さんが出し物の紹介を行い、全員でTWICEの「TT」を歌って踊り、AKB48の「365日の紙飛行機」を歌いました。

曲の最後には一人1枚文字を書いた紙を掲げて「WE♥TOWNSVILLE」と感謝のメッセージを表し、ホストファミリーへのメッセージを書いた紙飛行機を飛ばして、ホストファミリーへプレゼントしました。

最後の授業では、10年生（日本でいうと高校1年生）の日本語授業に参加させてもらい、一緒にタウンズビルのクイズやスラングのクイズを楽しみました。

帰宅後、この日がホストファミリーと過ごす最後の夜となりました。



グループごとに調べたことをまとめ、英語で発表しました。



お別れ会でスピーチをする中村さん



福谷さんの司会で、感謝の気持ちを込めて歌とダンスを披露しました！

8月22日(水)

長いようで本当にあっという間だったタウンズビルでの5日間が終わり、ホストファミリーとお別れの朝です。団員たちが、ホストファミリーと再会の約束をし、別れを惜しんで涙している姿を見て、本当に5日間でたくさんの心に残る思い出をホストファミリーからもらったのだなと感じると共に、現地でお世話になった方々への感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。最後に、全員で記念撮影をしてバスに乗り込みました。

タウンズビル空港に到着した後、現地のコーディネーターのスーザン・ロバーツさんからプログラムの修了証を受け取りました。団員の中から代表して下田大雅くんが感謝の挨拶をしました。

11時頃にタウンズビル空港を出発し、ブリスベンからシンガポール経由で帰国します。



別れを惜しむ団員たち

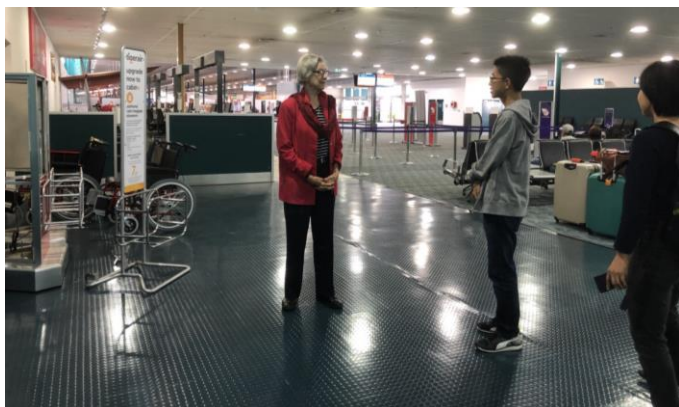
8月23日(木)

朝8時半頃に福岡空港に到着しました。9日ぶりの日本に団員たちは口を揃えて「暑い！！」と言い、「日本語が聞こえるのが変な感じがする」と言っている団員もいました。

お昼に徳山駅に到着し、駅には家族、市役所の方が出迎えに来てくれていました。団員全員、9日ぶりに会う家族に安心した様子で、それぞれ帰宅していきました。

私たち団員にとってこの9日間はかけがえのない時間となり、一回りも二回りも自分自身を成長させることができたと思います。この訪問団を通じてできた人々との繋がりを大事にしていきましょう。

皆さんお疲れさまでした！！



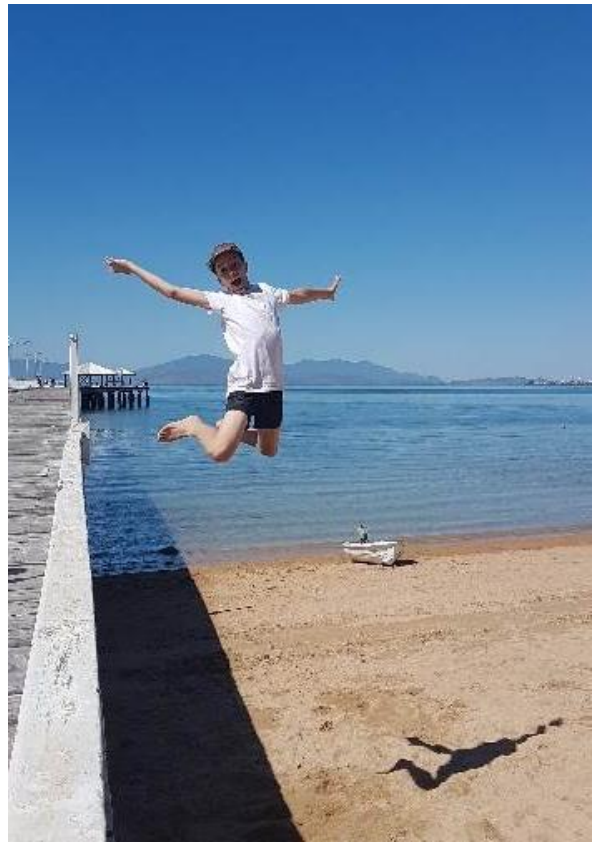
団員を代表してお礼を述べる下田くん



全員無事に徳山駅に戻ってきました！



これは、僕の家族です。
みんな明るくて優しい家族です。



家族とビーチに行きました。みんなで橋から飛んではしゃいでいるところです。

K. A. ※本人の希望によりイニシャルで表記しています。

(ホストファミリー Elizabeth & Carl Schutz 家)

僕はタウンズビル市がとても気に入りました。

高い建物が無いので、ゆったりしていました。コアラなどの見た目がかわいい動物がいるので、心がゆるまってくるのを感じました。

ホームステイも楽しかったです。

僕が行った家庭は、お父さんとお母さん、僕と同じ年のイーサンとやんちゃんなコーナーと笑顔がキュートなジェシカです。お父さんが武道を習っていて強そうでしたが、優しくしてくれました。日本からのお土産を渡したら家族みんな喜んでくれました。特にミニ畳や浮世絵の手ぬぐいを喜んでくれました。

土日は色々なところに連れて行ってくれました。

土曜日はボーリングをしに行きました。ホストファミリーの友達の家族とも一緒に楽しくプレイしました。その中で僕が一番になり、一気にヒーローになった気がしました。嬉しかったです。



友達の家族と一緒にボーリングをしました。場内はハデハデで、目がチカチカしました。

日曜日はマグネティック島のビーチに行ったり、コアラや爬虫類の動物園に行きました。僕は疲れていたの、ビーチの木陰で寝ました。潮風が吹いてとても心地よかったです。動物園では、いろいろな動物を触ることが出来ました。僕が「うんうん」とうなずくと、まねして首を振るトカゲがかわいかったです。一番楽しみにしていたコアラも抱かせてもらいました。とてもフカフカで目もクリクリしていてかわいかったです。

ホームステイ中は、毎日夕食の前に近所の友達と家の前で遊びました。家の前の道路はとてもゆったりしていました。近所の人達が仲良しなので、サッカーや野球のボールが庭に入っても気にする様子もなく、心が広いのだなと思いました。

次の日からいよいよ学校生活が始まりました。

昼休みはみんなラグビーをしていました。僕も誘われたので一緒にやりました。みんな僕の名前を一度で覚えてくれて見かけたら声をかけてくれました。とても嬉しかったです。

翌日は動物園に行った後、班に分かれて、動物のリポートを英語でしました。動物園ではカンガルーの餌やりが一番気に入りました。僕が柵の中に入るとすぐにピョンピョンと寄ってきて、僕の手からエサを食べました。人懐っこくてとてもかわいかったです。

最終日、ホストファミリーとお別れの時にハグやハイタッチをしてくれて、五日間過ごした絆を感じました。ステイ中は優しくしてくれて、僕がリラックスして過ごせるような雰囲気を作ってくれました。本当に良いホストファミリーに出会えてうれしかったです。

僕は行く前は、英語は何となく通じるものだと思っていました。しかし、実際行ってみたら知っている単語の数が少なく、もっと勉強が必要だと感じました。また、自分が言いたいことを英文にすることが難しかったです。しかし、積極的に話しかけて相手と仲良くなることができ良い経験になりました。僕は近い将来また海外に行けたらいいなと思っているのですが、次のチャンスまでに今よりもっと英語を上達させようと思います。



コアラを抱いています。おとなしくて、とてもフカフカでした。



家の前の道路はとても広かったです。毎日いっぱい遊びました。



キャッスルヒルからの眺めです。とてもきれいでした。

ホストファミリーの兄弟4人と一緒に撮りました。
とても賑やかでした。



佐藤 嵩仁 Takahito Sato

(ホストファミリー Kathleen Thorne & Toby Poole 家)

僕が周南市友好親善訪問団に参加して、一番の思い出はホストファミリーと過ごした時間です。

学校で初めてホストファミリーと会った時はとても緊張し、自分の名前を言うくらいしかできませんでした。でも、車で家に向かう途中で、好きな食べ物の話や、窓から見える風景についてなど、たくさん話しかけてくれて、少しずつ、緊張が解れていきました。

家は街から少し離れた郊外にあり、自然に囲まれていました。近くの草原では野生のカンガルーが出ることもあると聞いて、「さすがオーストラリアだな」と、とても驚きました。

ホストファミリーは男の子ばかりの4人兄弟で、犬二匹と家の中に豚が一匹いたので、とても賑やかでした。庭は野球ができそうなくらいとても広く、プールやトランポリンなどもあって、毎日みんなが走り回っていて、とてもうらやましく思いました。



ホストファミリーの家です。
庭はとても広く、プールやトランポリンもありました。

ホストファミリーは、休みの日は色々な所に連れて行ってくれました。

中でも一番の思い出は、海に釣りに行ったことです。みんなで夢中で釣りをしました。でも、1時間近く粘りましたが、誰一人魚を釣ることができませんでした。結果は残念だったけれど、僕にとっては、とても貴重な経験でした。

僕と同じ歳のウィリアムとは、日本語の話をよくしました。ウィリアムの学校では、日本語の授業があるので、日本語の言葉をたくさん知っていたので驚きました。日本語にとっても興味を持ってきていたので、僕が片言の英語で日本語を教える時はとても盛り上がりました。家族の名前や、身の回りにあるものなど、何でも片っ端から日本語で例えて説明しました。中でも、「good」は日本語で何ということという話になり、僕が、親指を立てて、「いいね！」と教えると、それが家族中に広まり、家族みんなで、何かと「いいね！」と、言い合い、ちょっとしたブームになりました。

ホストファミリーと過ごした6日間はあっという間でした。日本に戻った今でも、時々、家族の事を思い出して懐かしい気持ちになります。

僕はいつかまた、タウンズビルのホストファミリーの家のみんなに会いに行きたいです。そのために、もっと英語の勉強をして、もっと色々なことを話せるようになって、会った時に「いいね！」と言ってもらえるように頑張りたいです。



ホストファミリーのお父さんとお母さんです。一見、迫力がありませんが、とても優しく面白い家族です。



タウンズビルのシンボル、キャッスルヒルからの眺めです。海がどこまでも青くきれいでした。



釣りの帰りに寄った広場です。Townsvilleと書いてあります。



家の近くで野生のワラビーを見つけました。とてもかわいかったです。

お昼ご飯！日本に比べてとても多かったです。



末次 理子 Riko Suetsugu

(ホストファミリー Toni Lawback 家)

私は周南市友好親善訪問団に参加して、自分の目標としていた英語力を上げることとオーストラリアの文化を知ることを実際に体験しながら達成することができました。最初は緊張して行動に移すことができなかったけど自分なりの英語を使ってホストファミリーともコミュニケーションをとれるようになりました。

オーストラリアで学んだことはたくさんあります。まず1日目朝起きたときに気づいたことは、朝は寒いことです。昼は日本の夏並みに暑いですが、朝は日本の冬くらい寒い日もありました。

そして2日目は海に行き、ホストマザーのお母さんの家に夜ご飯を食べに行きました。日本食を振舞っていただきうれしかったです。

3日目は海とプールに行ったあとにマーケットに行きました。ここで知ったことは、オーストラリアではスイカ割りではなくピニャータというものを手作りで行うことです。ピニャータは中にお菓子が入っていて、目が見えない状態にしたまま割るというスイカ割りに似たゲームでした。



ホストファミリーの犬。
可愛かったです。

4日目からは学校に行きました。ホストファミリーの家からは遠く、毎日車で通学しているとのことでした。オーストラリアの学校と日本の学校はかなり違いました。日本の学校のお昼ご飯は、中学校までは給食が出て教室でみんなで食べますが、オーストラリアでは、それぞれが持ってきて食べていました。授業もみんなで受けるというよりは、自分が選択するという形でした。帰宅すると自由な時間があつた後、お風呂でした。オーストラリアでホームステイしている間気づいたのが、寝るのがはやいことです。休日でも学校の日でも、すぐにお風呂もご飯もすませ、すぐ寝ていました。その際、お風呂は1人だいたい5分程度でした。滞在中の生活は日本と全く違ったところばかりでした。そして文化の違いもさまざまな所でみられました。

私は9日間オーストラリアに行って1番に思ったことはあいさつがどれだけ大切かということです。英語を少ししか話せない私に残された手段は、始めのうちは「笑顔、あいさつ」でした。人は第一印象で変わるものだと思っていたので笑顔は心がけていましたが、初対面の人に会ったときに大事なものは笑顔で大きな声であいさつをすることでした。それに関しては、日本でもずっと言われ続けていました。だからあいさつは世界共通で大事なんだと思いました。

今回学んださまざまなことをこれからの生活に生かせるようにしたいと思います。



オーストラリアの博物館。
日本では見られないものが見れました。



3日目に行ったプール。
寒かったけど楽しかったです！



ホストファミリーと海！とても綺麗でした！



ホストマザーの実家でご飯！
日本料理美味しかったです！



ホストファミリーと一緒に

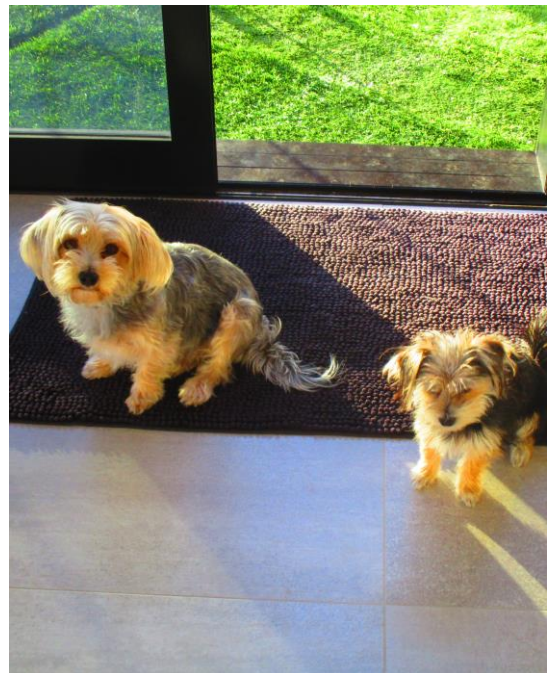
多嶋田 千裕 Chihiro Tashimada (ホストファミリー Dannette & Paul Treloar 家)

私は周南市友好親善訪問団に参加して、オーストラリアの良いところや、日本とオーストラリアの違いなどを学ぶことができました。

私は今まで海外に行ったことがなかったので、ちゃんと英語が話せるか、現地の人と仲良くできるかなどたくさんの不安を抱えていました。けれど、フレンドリーなおおらかなオーストラリアの方々は、私を温かく迎え入れてくださったので、不安な気持ちもなくなり、安心して現地での生活を楽しむことができました。ライアン・カトリック・カレッジでは、初対面の生徒たちが挨拶をしてくれたり、昼休みにダンスに誘ってくれたりしました。

私はオーストラリアでホストファミリーと過ごした日々が一番の思い出です。

ホストファミリーは、日曜日に私を水上バイクに乗せてくれました。水上バイクに乗るのは初めてで、乗る前は怖かったけれど、海の上を、風を感じながら走ることは楽しかったです。途中でバイクが止まるアクシデントがありましたが、もう一台のバイクに引っ張ってもらってなんとか島に着きました。



ホストファミリーの家で飼われている犬のマーベリック（右）とチャーリー（左）です。
他にも猫と魚を飼っていました。

ビーチでホストファミリーと走ったり、砂遊びをしたりして遊びました。ホストマザーとホストファザーがバイクを直してくれたおかげで、帰りはバイクが故障することはありませんでした。バイクで帰る途中で、ホストマザーがクジラを見つけました。間近でクジラを見ることができて嬉しかったです。

私は今回の訪問で、あいさつと笑顔の大切さを知りました。私は英語が苦手なので、ホストファミリーやライアン・カトリック・カレッジの生徒とコミュニケーションをとるのがとても難しく、苦戦しました。ですが、簡単なあいさつや笑顔だけでも心を通わすことができました。また、私がかうまく英語を話すことができなかつたとき、ホストファミリーはよく「It's ok.」と笑顔で言ってくれました。その笑顔で安心することができました。私の学校でも笑顔であいさつに取り組んでいます。学校内だけでなく、地域の人にもあいさつをするよう呼びかけています。しかし、私は最近あいさつをあまりしなくなつてきていました。今回の訪問であいさつの大切さを学んだので、これからは自分から進んであいさつをしたいと思います。笑顔も忘れないよう頑張りたいです。

最後に、今回この訪問を無事終えることができたのはたくさんの方々の協力のおかげです。とても貴重な体験をさせていただいたことに感謝し、学んだことを忘れず、これからの生活に生かしていきたいです。



島から帰る途中クジラを見ました。初めて間近でクジラを見たので嬉しかったです。



日曜日の夕方にホストファミリーのアシュリーのバスケの試合を観に行きました。アシュリーのチームは1点差で負けました。



ビーチでホストファミリーのアシュリーとナキアと一緒に名前をかきました。



初めてミートパイを食べました。美味しかったです。



タウンズビルのフォトスポットで
ホストファミリーと記念写真。

中村 香南子 Kanako Nakamura

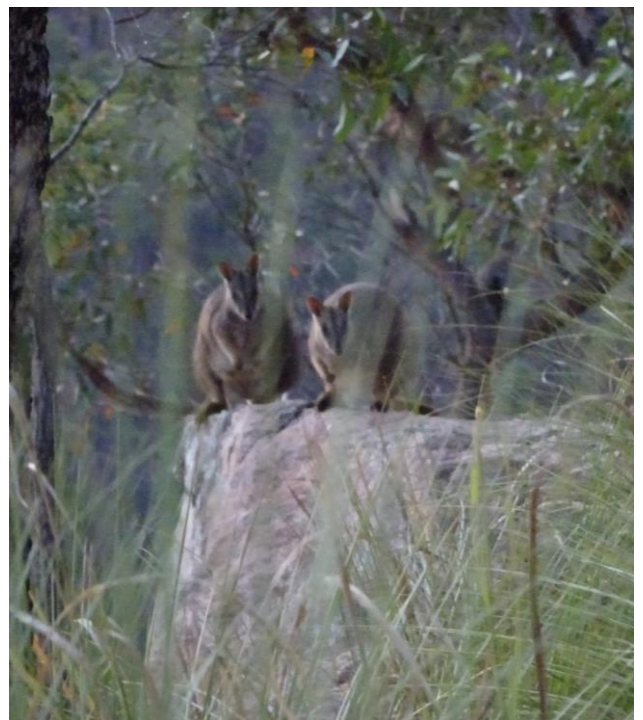
(ホストファミリー Keir 家)

私は、前から海外に行ってみたいと思っていました。なので、この研修に参加できると聞いてとてもうれしかったです。そしてオーストラリアに行ってみたいと思っていたので、行く前からとてもわくわくしていました。

8月17日はホストファミリーと出会う日で、私は、事前にメールのやり取りが出来なかったのでもんな人なのか分からず、少し緊張しましたが、とても優しく出迎えてくれて、とても安心しました。ホストファミリーは4人兄弟で、とても賑やかで楽しかったです。この日は、ホストファミリーのジマのラグビーの試合に行きました。私の弟もラグビーをやっているの、その話で盛り上がりました。

18、19日はホストファミリープログラムで、ホストファミリーといろいろな所に行きました。

18日は午前中、ホストファミリーのインディーとネヴィーとフィネラのサッカーの試合に行った後、大きなショッピングモールに行きました。



丘で見たワラビーの写真。
かわいかったです。

そして夕方には高い丘に登って、タウンズビルの夜景を見ました。とてもきれいでした。その丘で面白い植物を見たり、野生のクジャクやワラビーを見ることが出来ました。日本では野生のクジャクはいないので驚きました。ワラビーはとてもかわいかったです。

19日は朝、マーケットに行きました。ショッピングモールとは違って、外で商品売るので、とても活気がありました。マーケットでは珍しいことやものがたくさんありました。アボリジニーの楽器を演奏している人や、野菜屋さんではココナッツの実を割って売っている人がいて、驚きました。

その後、「クリスタルウォータークラーク」というところに行って、泳いだり、岩を登ったりしました。オーストラリアは今、冬ですが、外は暖かかったので、水が気持ち良かったです。岩登りは、私は運動が苦手なので少し大変でした。夕方には、スーパーマーケットに行きました。日本の商品に比べて、色々な物がビッグサイズだったり、お店の中での飲食がオッケーだったり、日本のスーパーと違うところが多かったです。この2日で、ホストファミリーといろいろなことが話せて仲良くなれました。

20、21日は「ライアン・カトリック・カレッジ」という学校を訪ねました。そこで、英会話授業や日本語の授業をしました。日本語の授業の生徒さんが、お昼ご飯を食べる時間が1日2回あったり、昼ご飯を食べる場所が自由だったり、昼休みはみんな外で遊んだりしていて、日本とオーストラリアでは学校生活も違いました。

21日は動物園に行きました。コアラがかわいかったです。そして、この日がホストファミリーと過ごす最後の日でした。ホストファミリーからジマのラグビーチームのTシャツをもらい、とてもうれしかったです。大切にしたいです。

8月22日ホストファミリーとお別れの日です。この研修の間一緒に過ごして、たくさんの思い出を作り、別れるのがとてもさびしかったです。

この研修で現地の人達と積極的に交流し、オーストラリアの文化を学ぶことが出来ました。そして、オーストラリアの魅力をたくさん知り、また日本の良さを再発見しました。この研修での経験をこれかに活かしていきたいです。



ジマのラグビーの試合



マーケットでココナッツの実を割る人の写真。とてもおいしそうでした。



クリスタルウォーターパークの写真。水がとてもきれいでした。



ホストシスターのソフィーちゃんと撮った写真です。

橋本 紗良 Sara Hashimoto

(ホストファミリー Barrett 家)

私がこの友好親善訪問団に参加してオーストラリアについて色々なことを学び、そして色々なことを経験しました。私にとって初めての海外であるオーストラリアは私を成長させることができるとてもいい経験となりました。

私は初めての海外へ行くことになった時、そこには嬉しさしかなかったのが、出発前の前日は不安の方が嬉しさよりも大きく上回っていたのを覚えています。

でもその不安は、オーストラリアに着いてなくなりました。タウンズビルに着いた時、水族館では世界一大きなサンゴ礁を見たり、ふれあいコーナーで初めてナマコやヒトデ、エイを触ってクマノミと一緒に写真を撮ったり、大きなホールのようなところに入って魚を見上げたりと、楽しい経験やそれとともに学んだことがたくさんできました。



タウンズビルの水族館です。
まるで水のトンネルのようでした！

私が一番楽しみにしていたホームステイプログラムでは、いい家族に恵まれました。長女のソフィーとは年が近かったので色々な話をしたり、遊んだりしました。次女のエマは、とてもおしゃべりで色々と話したり、トランポリンや、ペットの犬と遊んだり、ということがしょっちゅうありました。まだ2歳のアピーは、とても恥ずかしがり屋だったのですが、後半になってよく遊ぶようになりました。ペットは犬だけでなく、猫、鑑賞魚、そして鶏まで飼っていました。卵はいつも鶏が生んだ取れたての卵を使うそうです。最近鶏がたくさん卵を産んでいて、ホストマザーが近所の人に、鶏の卵を上げているところを見ました。週末には、家族みんなでスーパーマーケットに行きました。このとき、驚いたのは、一つのものにこんなにたくさんの種類があることです。例えば、パン売り場にある、フランスパンの種類が何種類もあったり、ドーナツ専用の売り場があたりして、日本と違う点をたくさん見つけることができました。

私は、初めての海外の経験として、気づいたことがあります。それは、例え言語が違って通じるということでした。実際私は、英語は、習っていても、英会話はやっていないので出発前の説明会の英会話授業は、全然だめでした。でも、現地に行ってなぜかわからないけど、私の英語が通じたのです。行く前に私の学校の友達が教えてくれました。

「私のお兄ちゃんもオーストラリアに行ったけど、yes と、no で通じたって。」

それを聞いた私はびっくりしました。行く前までは、嘘かと思ったのですが、本当のことでした。ホームステイの時、「実際それをする」+「自分の知っている数少ない英語を言ってみる」と本当に通じたことに驚きました。確かに、英語を先にしっかり勉強した方が便利だと思います。でもそれを使わないより、知っていなくて会話する方がよほど大切だと思います。

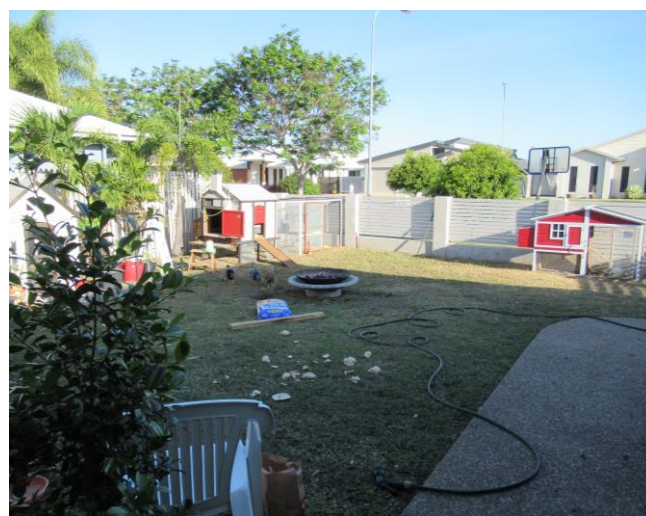
私は、日本とオーストラリアの違いを、身近に色々な所で見つけることができました。今回この貴重な体験をもとに、これからの生活に活かしていきたいです。



タウンズビルの展望台から市街を見下ろしました。



ホストファミリーの庭からとった写真です。とても大きかったです。



ホストファミリーの家の庭です。ニワトリを飼っています。



ホストファミリーと海に行った。
浜辺の砂がサラサラすぎてビックリ！



「はい、ひょっこりはん」のコアラ。
獰猛とは思えないほど可愛くて癒された。

橋本 芽姫 Mei Hashimoto

(ホストファミリー Donna & Andrew Pacey 家)

私は、周南市友好親善訪問団に参加し、オーストラリアと日本の違いや共通点を感じることができました。

私は、オーストラリアに行くまで不安でいっぱいでした。でも、ホストファミリーが温かく迎えてくれて不安が軽減しました。

初めは、コミュニケーションをとるのが難しく大変だったけど、ジェスチャーや翻訳アプリを使うことで、お互いが理解でき、楽しく話すことができました。また、慣れてきた頃には、自分の耳で聞き取れることが多くなりました。なので、もっとリスニングに磨きをかけていきたいと思いました。

オーストラリアでは、日本で体験できないようなことを多く体験しました。一番身近なことで言うと、家です。外国では、靴のまま家に入ることが当たり前だと聞いたことがあります。



ホストファザーが作ってくれた夕飯。
お米が食べられて嬉しかったし、美味しかった！

実際、カーペットの上に靴のまま上がっていたのでとても驚きました。日本では、靴を脱ぐことが当たり前なので、初めは靴のままカーペットの上を歩くことに抵抗がありました。また、周南市で家庭にプールのある家を見たことがなかったので、一般の家にプールがあることに少しびっくりしました。

ホームステイ4・5日目は、ホストファミリーのハナとオリビアと一緒に学校に行きました。日本の学校とは違い、1階建てで、広々とした憩いの場や遊び場があり、とても羨ましかったです。

昼食はお弁当でした。私は日本のような、主食・主菜・副菜が入ったお弁当を想像していました。

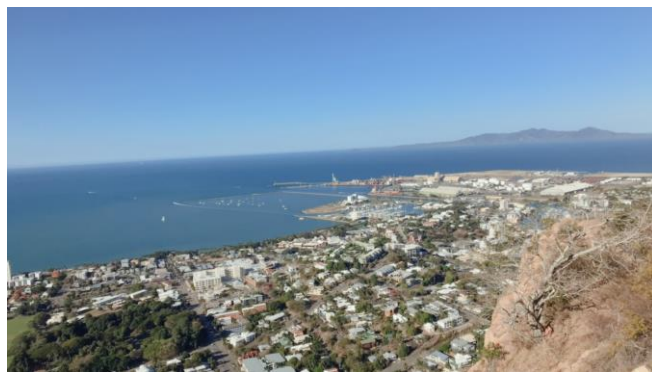
でも実際は、スナック菓子やカップケーキ、クッキーなどのちょっとしたスイーツとフルーツが入っただけでした。驚いて一瞬言葉を失いました。

でも、お昼に好きなものを食べることができ、幸せでした。

ホームステイ5日目、ビラボン野生動物保護園を訪れました。そこでは、ウォンバットやコアラ、蛇、カンガルーに触ることができました。コアラは抱っこして写真を撮りました。ふわふわしていて、触り心地がとても良かったです。蛇を首に巻いた時、意外と重くて硬かったけど、怖くはありませんでした。たくさんの貴重な体験をすることができ、本当に楽しかったです。このホームステイで過ごした時間は一生の宝物です！

また、ホストファミリーやオーストラリアの人たちとの会話を通して、少しだけど、自分の英語力を上げることが出来たと同時に、私に欠けている部分を見出すことが出来たと思います。今回の訪問で、学んだことをこれからに活かしていきたいと思います。また、自分に欠けている部分を十分に満たしていけるよう、頑張っていこうと思います。

周南市友好親善訪問団は、英語力を上げるだけでなく、英語で話せる喜びと楽しさ、たくさんの友達や思い出を作れる良い機会でした。自分が変わる良い機会なので、それらを家族や友達に伝えて、より多くの人に参加してもらいたいです。



キャッスルヒルから見たタウンズビル市。
今度は歩いて登りたいな。



人を噛まない蛇。硬くて、どっしり重い。



犬たちと一緒に海へ。
犬掻き、上手だったなあ～。

シドニーのビーチで。(本人中央)



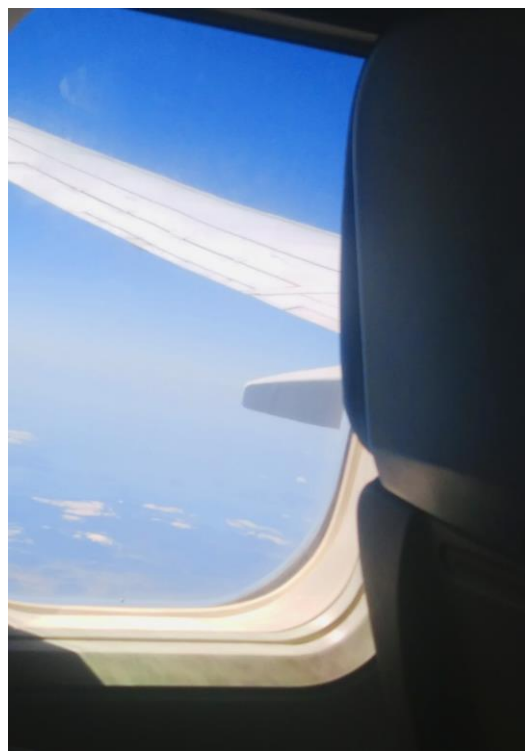
福谷 眞生 Mao Fukuya

(ホストファミリー Swaine 家)

わたしが、この親善訪問に行ったきっかけは、まず友達にこの事を教えてもらいました。自分が、ホームステイなんて難しそうまで到底手が出せる自信はありませんでした。英語もそんな流ちょうに話せないし、家族抜きでの一人で海外の方たちとなじめるか不安でした。

でも、私も一度はホームステイしてみたかったのでこれはいい機会なのかもしれないと思い応募しました。英検三級も取得していたので、それが少し自信につながりました。行く前に立てた目標は、ホームステイ先の家族の方たちと仲良くなり、ほかの人たちよりもより多くの事を学ぶ！です。出国前に何度か集会がありました。その中で、A、B、C、それぞれの課題を現地で調べるという課題で、わたしたちのグループは教育について調べました。私は、学校生活について調べることになり、校則はあるのかななどをしらべました。

ついに出国の日になり、徳山駅から出発するとき、親と離れるのが少し寂しかったです。



日本を旅立つ飛行機の中から

福岡国際空港に着いたとき、
「ああもう海外に行くんだなあ」
と実感しました。

飛行機に乗ってシンガポールのチャンギ空港に行く際、まだまだオーストラリアまでは遠いのにとても疲れてしまい、この後もずっと乗らなきゃいけないと思うとすごくうなだれました。チャンギ空港で少し自由時間があり、同じ訪問団員と色んな所を回り、おそろいのものを買ったりしてとても充実した時間でした。

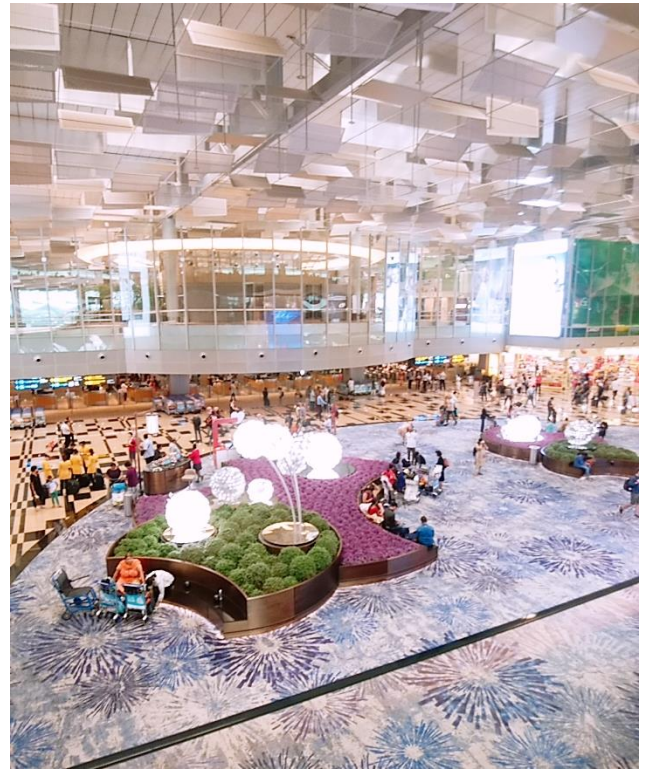
チャンギ空港からオーストラリアまでは約6時間かかり、その間には機内泊も含まれており、寝られるか不安でした。でも案の定眠ることは難しく、周りの友達はぐっすり寝ていたので、しゃべることもできずに、忍者のようにして起きていました。そしてやっと朝になり、あともうちょっとで着くと添乗員さんに聞けたときは、すごくうれしかったです。

やっとオーストラリアのシドニーに着き、荷物を持ち外に出ると、今までの疲労がどっときて、眠気と頭痛が襲ってきました。その日は色んな観光名所に行く予定になっていたのですが、とにかく寝なきゃ倒れると思い、必死の思いで眠りにつきました。

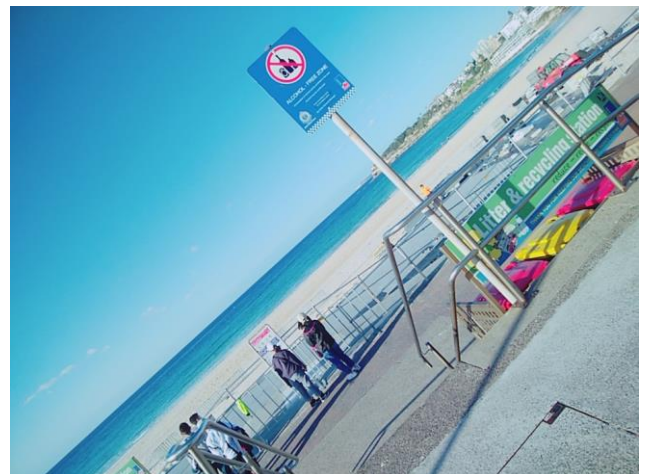
そして、いろいろな観光地に行きました。その中で一番良かったところは、海です。とても砂がきれいで、ごみひとつなく、感動するぐらいとてもいいものでした。その日はホテル泊でした。大人抜きでのホテル泊はとっても楽しかったです。

そしてついに、ホームステイする日が来て緊張が収まらず、ずっとソワソワしていました。そして待ちに待ったホストファミリーと対面し、動揺で自己紹介がガタガタになってしまい、ファミリーの方々に緊張しなくて大丈夫よ、と優しく声をかけてもらい安心できました。そして5日間ショッピングに行ったり、ファミリーのおうちのプールに入ったり、とても充実した時間が過ごせて、とてもお別れしたくはありませんでした。ついに本当のお別れの日になり、涙が止まりませんでした。

わたしはこの訪問で最初に目標にしていたことは達成でき、とても成長できました。



シンガポール・チャンギ空港



シドニーのビーチ。砂がきれいで感動でした！



ホストファミリーとの対面



はじめてカンガルーに餌やり。

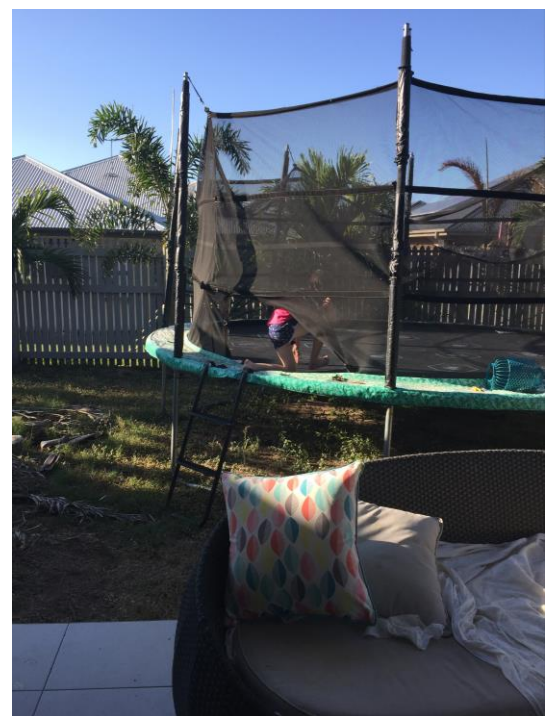
伏谷 実 Minori Fushitani

(ホストファミリー Barrett 家)

この度、私は周南市友好親善訪問団に参加して、初めてオーストラリアに行き、日本とは違った生活を体験しました。行く前は、ホームステイが初めてということもあって、ホストファミリーとちゃんと話せるかどうか、仲良くできるかどうか、不安でいっぱいでした。でも、いざ行ってみるとすごく楽しくて、ホストファミリーとちゃんと話せたどうかは分かりませんが、仲良くできたと思います。これは、受け入れてくださって優しく笑顔で接してくれたホストファミリーと、一緒に行った訪問団員のお陰です。

シドニーでは、オペラハウス、ハーバーブリッジ、ミセスマッコリーズポイントやロックスなど、観光をしました。

その観光の中で心に残っているのが、ボンダイビーチとセント・メアリーズ大聖堂です。ボンダイビーチは、テレビで見たことがあって、「きれいだなあ」と思っていました。実際は、思っていた通りきれいで、日本のビーチの砂と違って、とてもさらさらで、ゴミがなく、裸足で歩いてみると冷たくて気持ちよかったです。あと、砂にのこった鳥の足あとが可愛かったです。



広い庭にあるトランポリンでホストファミリーと遊びました。

セント・メアリーズ大聖堂は、とても大きくて、天井が高く、ステンドグラスがたくさんあり、きれいで、空間が神秘的でした。日本にも教会はありますが、あそこまで大きな教会を見たのは初めてです。

私のホストファミリーは両親と子供4人、鶏8羽、猫2匹、犬1頭、魚1匹と大家族でびっくりしました。庭はとても広く、大きなトランポリンがあったり、鶏が放し飼いになっていて、簡単に触ることもでき、日本との違いに戸惑いましたが、自然の中でのびのびと暮らしている姿がとても気に入りました。また、家の中では、おもちゃはもちろん、家具や照明までもがとてもかわいく、うらやましい限りでした。ホストファミリーと一緒に買い物したり、トランポリンをしたり、犬や鶏とたわむれたり、たき火でマシュマロを焼いたりして、楽しく過ごすことができました。

この訪問団に参加して一番印象に残ったことは、ライアン・カトリック・カレッジの生徒がとても優しく、いい人ばかりだったことです。こんな学校に通ってみたいと思いました。もし、ライアン・カトリック・カレッジの生徒を受け入れることがあれば、今度は私が優しくもてなしたいです。

私はこの訪問団で積極的になること、英語を話すことを目標にしていました。初めてのことが多く、戸惑うこともありましたが、積極的に色々なことが出来て良かったと思います。英語は話す機会はたくさんありましたが、なかなか言いたいことが言えず、もっと英語を勉強しなければと思いました。今回の訪問団で色々な経験をさせていただき、ありがとうございました。今後の学校生活に生かしていきたいです。



滑走路から歩いて飛行機へ



空港にあったバナナ型のコーン



ホームステイ先のかわいい部屋



ホストファミリーとたき火でマシュマロを食べました！



フェリーの上で。寒かったです。

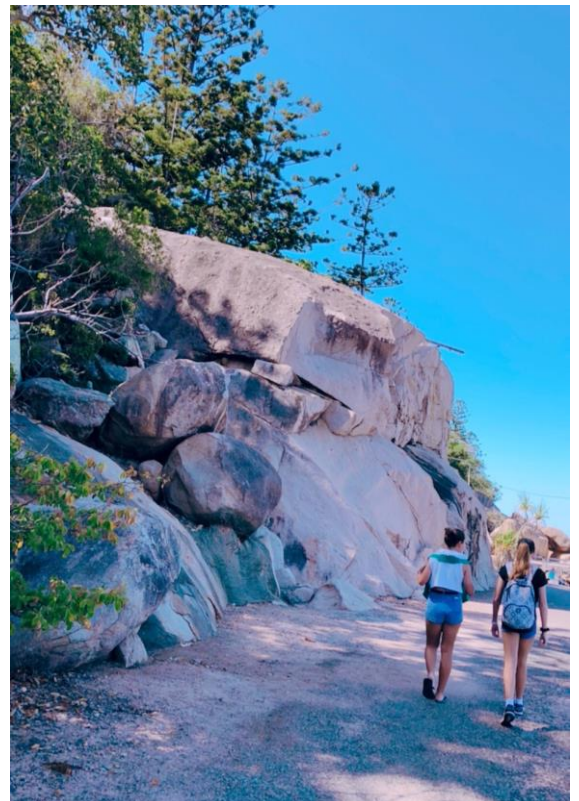
美安 萌乃 Moeno Miyasu

(ホストファミリー Sandra & Greg Lundie 家)

私は周南市友好親善訪問団に参加し、日本とオーストラリアの違いを感じることができました。

私はオーストラリアに出発する前は、家族と離れて海外に行くという不安と、緊張でいっぱいでした。しかし、ホストファミリーのランディ家の方々が温かく迎えてくださったおかげで、不安や緊張はすぐに解けました。ホストファミリーはお父さん、お母さん、お兄ちゃんのマシュー、私と同じ年のジョルジャ、そして大きな犬2匹という家族構成でした。ジョルジャは同じ年なので、とても話やすく、オーストラリアの十代の子達の流行り言葉や、学校生活のこととか教えてもらいました。でも、なかなかスムーズに会話ができなくて困ることもしばしばありました。そんな時はジョルジャが翻訳アプリを使って、私の言いたいことを一生懸命理解してくれようとして、とても嬉しかったです。

初めての休日は、タウンズビルで有名な観光スポット、マグネティック島に、ホストマザー、マシュー、ジョルジャ、ジョルジャの友達カーラーとフェリーに乗って行きました。



ワラビー探し！驚かさないように。

オーストラリアは冬で、しかも朝早くに出掛けたので、海風がとても冷たくて寒かったです。でも、タウンズビルの大自然やキャッスルヒルの雄大さに見とれていると、あっという間に島に着きました。島では、野生のワラビーが岩陰にいるので、みんなでワラビー探しをしました。驚かさないように、足音を立てないように捜します。一瞬だったけど、間近でワラビーを見ることが出来ました。足の短い小さいカンガルーのようで、とても可愛らしい動物でした。

次に海に入って遊びました。海はとっても綺麗で透明度が高く、寒かったけれども、みんなで棒取り競争したりして寒さも吹っ飛びました。ビーチを移動して2か所の海で遊びました。遊んでいる時に、カーラーが私に「東京に行ったことある？」と訊いてきました。

彼女は原宿に行きたいと言っていました。日本に興味を持っていてくれて嬉しかったです。

次の日は、スポーツセンターでトランポリンをしました。ジョルジャはチアダンスをしているので、トランポリンで凄い技を披露してくれました。思わず拍手してしまいました。

ホストファミリーは、みんな温かく、ホストマザーはとても陽気に接してくれて、いつも私に、「心配しないで。」と声をかけてくれました。おかげで、寂しい思いや、不安な気持ちになることはありませんでした。

自然の中で体を動かし、たくさん貴重な体験をすることができました。帰国後もメールでジョルジャと連絡を取り合っています。

新しい友達は一生の宝物です。



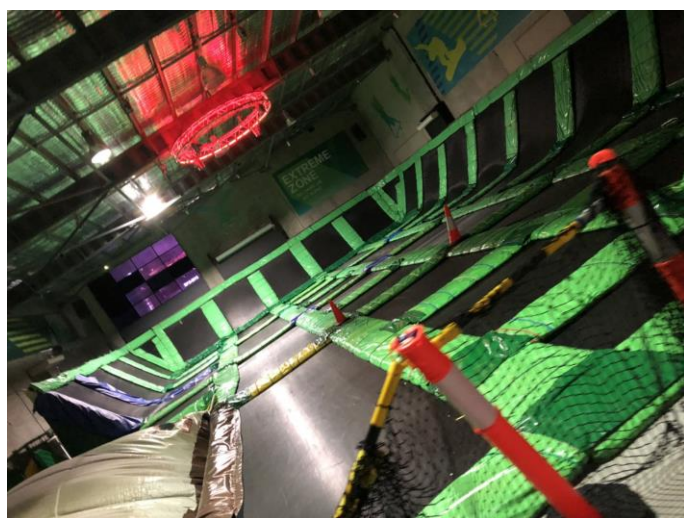
フェリーからの眺め。すごく綺麗だった！



カニ探し。大きなはさみのカニだった！



おおー！さすがチアダンス！きれい！



トランポリン！
身近でできないことができた！楽しかった！

有名な photo spot !



石井 日菜乃 Hinano Ishii

(ホストファミリー Tracy & Matthew Stone 家)

私は、海外に行くにあたって「自分から行動する」ことが一番大切なことだと思います。

私は、ホームステイよりも前からインターネットを駆使して、コミュニケーション英語を学んできました。しかし、実際に海外に行ってみると、想像以上に、言葉が英語で出てきませんでした。いくら自力で勉強しても、勉強したことを実践してみないと、今まで培ってきた知識量を発揮することができないということが分かりました。このことに加え、今回オーストラリアに行き行って学んだことが3つあります。

1つ目は、自分の気持ちを閉ざさず、ちゃんと NO と言うことです。ホストファミリーに NO と言うのは、抵抗があると思います。しかし、NO と言うことは、決して悪いことではなく、相手を否定する言葉でもありません。コミュニケーションをとるにあたって、大切な言葉です。NO と言うのに抵抗があるのであれば、NO, thank you. と添えるだけで十分感謝は伝わります。大切なことは、YES と NO をはっきりさせることです。

2つ目は、「私」といった固定概念を持たず、広く受け入れる気持ちで接することです。

その1つとして、生活習慣の違いがあります。



ピカチュウのヘアバンドをお土産であげて喜んでくれたMatilda

例えば、就寝時間です。日本の高校生は、大体22時から24時に寝る人がほとんどですが、オーストラリアでは、親も子も21時には寝ます。私が行った当初は、オーストラリア人の就寝時間を把握していなかったのですが、とても驚きました。そういった生活習慣の違いを理解する必要があるということも学びました。

3つ目は、「個性」を大切にすることです。日本人は客観的にみると、人と「合わせる」ことを大切にしているように感じます。例えば、日本の高校では、髪染めやピアスの禁止など様々なルールがあります。しかし、オーストラリアの高校では、髪染めやピアスも許されていました。また、先生と生徒との距離を縮めるために、お互い下の名前呼びあっているそうです。確かに、人と合わせることで、協調性や集団性といった能力が身につくことは大事だと思います。

しかし、日本人はそういったルールに過剰に支配され、「個性」を失っています。人と違うことはいけないことではなく、逆にそれだけ勇気がある素敵なことということも学びました。これからは、限られたルールの中で、どうやって個性を発揮することができるかを考える必要があると思います。

以上3つのことを学びました。

私は将来、留学して、海外のイベント企画会社に入りたいと思っているので、今回学んだことを周囲の人に伝えて、役立てていきたいと思っています。

建物から歩く人でさえ私の夢が詰まっていて、もっといろいろな国に行ってみたいという思いが強くなりました。オーストラリアから吸収してきた数えきれないほどの記憶を、忘れないうちに、明日からまた夢を叶えるために頑張ろうと思える素敵なホームステイでした。



Stone family



ライフセーバーになるために訓練しているClancy



食べながら寝ているMacy



岩で怪我した時にライフセーバーに処置してもらっている写真



英語を上達させて、またタウンズビルに行きたいです。

大庭 優花 Yuka Oba

(ホストファミリー Megan & Dean Harbourne 家)

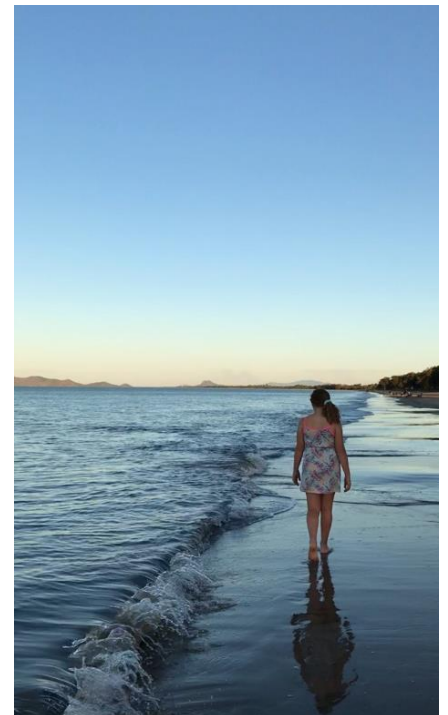
今回のオーストラリア訪問は、私にとって貴重な体験となり、これからの進路をより深く考えるきっかけとなりました。

オーストラリアに到着した時、周りで話す人たちが日本語以外の言葉で話していて、少し緊張してしまいましたが、一方でホームステイがとても楽しみにもなりました。

タウンズビルに着いてまず驚いたのは、市長さんがとても気さくな方だということでした。2人で写真を撮ったり、アフタヌーンティーを楽しんだりして、緊張がほぐれました。

ホームステイ先では、最初はなかなか話しかけることができませんでした。次女の Joanne がフレンドリーでよく話しかけてくれたので、少しずつ打ち解けることができました。ホストファミリーの家は、海が目の前にあり、毎日ビーチを散歩しに行きました。夕日が綺麗でとても印象に残っています。私も将来は、海の近くに住みたいと思いました。

ホームステイ初日のディナーは、ピザを作って食べました。食後は、家族みんなで映画を見ました。普段は、食後に家族みんなでゆっくり過ごすことがないので、とても新鮮でした。



家の目の前ビーチ。
夕日がとても綺麗でした。

4日目は、長女のErinが大好きな馬を見に行きました。

初めてロデオを見に行ったのですが、危険な競技でしたが、とても迫力があって面白かったです。Erinは本当に馬が大好きで、将来の仕事も馬と関わる仕事がしたいと言っていました。大好きなものがあり、イキイキしている素敵な彼女を、私は尊敬します。そんな彼女を見て、私も仕事にしたいと思うほど大好きなことを見つけたいと思いました。

6日目はライアン・カトリック・カレッジに行きました。

日本と違って、一つの大きな校舎があるのではなく、小さな教室がいくつもあり、教室移動の時は、外を歩いて行きました。ここでは、英語と日本語の授業を受けました。

日本語の授業では、生徒のみんなとお互いに質問しあって会話をしたのですが、とても日本語が上手で、私も英語の勉強をもっと頑張ろうと思いました。また、ランチタイムやアフタヌーンティーの時間は、みんな元気に遊んでいていいなと思いました。

ホームステイの最終日、私はホストファミリーとの別れが想像以上に悲しかったです。別れる時は、もう会えないかもしれないと思うと寂しさでいっぱいになりましたが、日本に戻ってからメールで会話できているので、今後も交流を続けられたら嬉しいです。そして、またいつか会いに行きたいと思っています。

このオーストラリアの訪問中、言葉の壁はあったけれど、自分の思っていることを何とか伝えようと努力できたことが、私の成長した部分ではないかと思います。これからも英語を学び、色々な国に行き、色々な人と会話して、多くの人間関係を築いて自分の宝にしたいです。



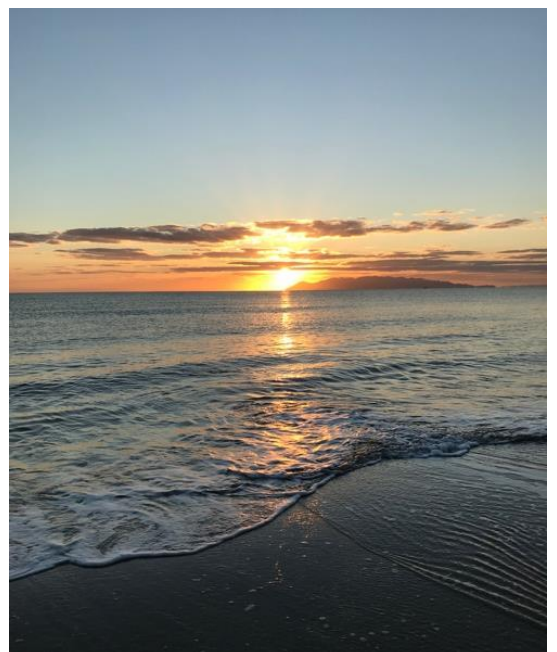
ロデオ。危険だけど、とても迫力があって面白かったです。



マーケット。いろんな野菜や果物がたくさんありました。



ロデオ会場の遊具。
思ったところにロープを投げるのが難しかった。



お別れの日の朝



タウンズビルの動物園に行きました。
初めて本物のコアラを見ることが出来たし、コアラと自撮りも出来て、とてもいい思い出になりました！（本人右側）

黒木 奏美 Kanami Kuroki

(ホストファミリー Jacinta & James Wallace 家)

私がこのホームステイで心に残ったことは、ホストファミリーとの日常です。

バスを降りて初めてホストファミリーと会うとき、とても緊張していたけど、たくさん自分から話そうと思っていたけど、あまり話せずにいたら、ホストファミリーのローリンとヘイリーが日本語の辞書を使って質問してくれたり、日本のアニメについて、たくさん話しかけて来てくれたりして、人見知りなんてしている暇なく、すぐ打ち解けることが出来ました。

家に着くと、まず家中の部屋の説明をしてくれました。私がホストファミリーの家に行った時の第一印象は、いつもテレビで見ている、映画の『トイ・ストーリー』に出てくる登場人物の部屋と似ているなあと思いました。



映画、ファインディングニモに出てくるシドニーの港を見に行きました。テレビの画面で見っていた景色と同じ景色を実際に見ることができて感動しました。

でもそれは部屋だけでなく、食べ物だったり、スナック菓子がカラフルな器に入れられていたり、自分が外国の映画のストーリーの中に入り込んだようでした。

また、オーストラリアの食べ物は、私が思っていた通りにビッグサイズでとても驚きました。日本の食べ物とは全然違っていたけど、どの食べ物も全て、すごく美味しかったです。

また、オーストラリアの人はとてもフレンドリーでした。

私は、ホストファミリーと出会ってから2日目に、ホストマザーの大親友の家族と一緒に、ビーチで晩御飯を食べました。

ホストファミリーと初めて会った時もそうだったけど、初めて会ったとは思えないほど仲良くなることができました。これまで、日本でこんなにも早く、初めて会った人と仲良くなれたことがなかったため、オーストラリアの人は、日本人よりもフレンドリーなんだなあと思いました。

ホームステイをした、わずか5日間という短い期間でしたが、毎日が夢のように楽しくて、とても良い思い出になりました。公用語が英語と日本語で違うけど、言語の壁を感じることなく、たくさん会話をしたり、いろんなゲームで遊んだりできました。

この、とても貴重で刺激的な体験を、将来の自分の仕事にいかしたいと思いました。



これはホストファミリーの家でとった写真です。庭に大きなプールがあったので、とても驚きました。

ホームステイ中は寒すぎて泳ぐことは出来なかったけど、足だけ浸かることが出来ました。とても気持ち良かったです！



この写真はホストファミリーにショッピングモールに連れて行ってもらった時の朝御飯の写真です。飲み物もトーストもスクランブルエッグの量も、全てがビッグで驚きました。とても美味しかったです！

ホストファミリーとホストマザーの大親友の家族と、夕日が綺麗なビーチで晩御飯を食べました。とても綺麗な景色を見ながら、とても美味しい晩御飯を食べている時はとても幸せでした！

僕のホストファミリー、Schutz家。
左上から順に、僕、Erizabeth、Carl、
Conner、Jessica、Ethan。



下田 大雅 Taiga Shimoda

(ホストファミリー Elizabeth & Carl Schutz 家)

僕は海を越え、日本の領域を越えて未知の世界に踏み込んだことがありませんでした。降り立った空港で、肌の白い人、黒い人、民族衣装のような服を着ている人がいたり、頭をターバンで覆った人がいたり…。ここはもう日本じゃない。「これから何かが始まる！」ワクワク不思議なこの感覚を、僕は一生忘れないでしょう。

そこから一日シドニー観光をし、翌日にはタウンズビルへ。

待っていたのは雄大に広がる南太平洋、そして僕のホストファミリー、シュッツ家でした。彼らは優しく、かつ積極的に、たくさんのことを質問してきました。子どもたちは、12歳のイーサン、9歳のコナー、7歳のジェシカ。彼らは、日本や周南市のことに興味津々。僕は、グーグルアースを使って、僕の学校や家などを紹介しました。



マグネティック島のビーチにて。
長男のEthanが自分の名前を砂浜に描いています。

また、自分が知っているものを外国で見つけると興奮するのはオーストラリア人も同じようで、マクドナルドやケンタッキーなどを見つけて喜んでいただけました。

週末には家族みんなで“マグネティック・アイランド”という島に出かけました。そこは州有数のリゾート地の一つで、本土からは船で約40分かかります。そこで海水浴や、ビーチバレーを楽しんだ他に、動物園もあるので、念願だったコアラを抱っこすることができました。フワフワのぬいぐるみのようで、とても可愛かったです。

毎日夕方には、家の近所の子たちも含め、いろんなスポーツをして遊びます。サッカーやかけっこ、クリケットなど…。シュッツ家の子供たちも皆とても元気で、夕食が出来上がってもずっと走り回っている姿に、「どの国も同じだ」と自分の幼少の頃を思い出しました。

そして、あっという間に別れの時がやってきます。ホストマザーのエリザベスは、学校業務で忙しく、あっけない別れで寂しかったですが、シュッツ家は僕の第二の家族だと思っています。これからもずっと交流を続けていけたら、と考えています。

僕は出国前に様々な心配をしていました。上手く話せるか、自分の英語が通じるか。しかし、それらはすべて杞憂に終わりました。

英語が通じるか否かなど全く関係なく、コミュニケーションに必要だと感じたのは、伝えたい思いと積極的な姿勢です。何かを伝えようとする熱意があれば、相手と心で通じ合える。今回の訪問でそう感じました。

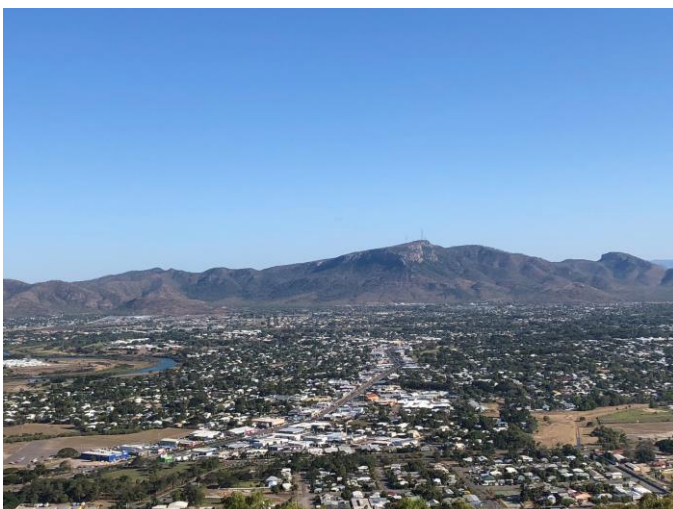
最後になりましたが、今回このような貴重な経験をさせていただいた市役所の方々、両親、僕を快く受け入れてくださったシュッツ家の皆さんに感謝を申し上げます。



念願だったコアラの抱っこ!! その可愛い手は、僕の肩をギュッと掴んでいます。



左上は12歳のEthan、左下は7歳のJessica。ホストチルドレンは皆とても元気!



市内最高峰のCastle Hill。市内全域や、マグネティック島も一望できる。

マンゴーの木を見に行きました。
小さい木で、並んで植えてありました。
マンゴーのジェラートはとても美味しかったです。



山崎 凜花 Rinka Yamasaki

(ホストファミリー Brianne & Michele Falconieri 家)

私は周南市友好親善訪問団に参加してたくさんの出会いと思い出を作ることができました。

私は飛行機に乗ったことがなく、もちろん外国に行ったこともありませんでした。すべてのことが初めてだったので、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、団員の皆さんやホストファミリーの方々が温かく迎えてくださったので、緊張も解け、安心して、素晴らしい時間を過ごすことができました。シドニーの観光では、想像していたより寒く、驚きました。オペラハウスやハーバーブリッジは、歴史を感じる素晴らしい建物でした。海は素足で砂浜に入った際、砂がとてもきれいでさらさらしていて、足に砂が全くつかないことに驚きました。

次の日は、いよいよタウンズビル市に向けて出発です。着いてからは市役所、キャッスルヒル、水族館を観光しました。そして、ホストファミリーの方と対面しました。第一印象は明るくて、優しそうな家族だなと思いました。家族構成は父、母、兄、弟の四人家族で、犬を一匹飼っていました。兄弟はとても仲が良く、私も仲良くなれるかなと心配していましたが、折り紙やゲームなどをしてすぐに仲良くなることができましたので嬉しかったです。



犬のベンジです。お母さんと一緒にシャンプーしたり、家族と散歩に行ったりしました。とても可愛いです。

兄弟そろって日本のアニメにとっても興味があり、私も知らないアニメのことなど、たくさん話してくれました。夜には、お父さんとお母さんが巻き寿司を作ってください、お父さんは日本食が大好きと言っていて、紅ショウガやわさびを普通に食べていたので驚きました。その後、キャッスルヒルに行き、夜景を見ました。昼間に見た時とはまた違う景色で感動しました。

また、滝を見に行ったり、バーベキューをしたり、色んな所に連れて行ってくれました。中でも、お母さんと2人でショッピングをした際に、帰りの車で

「男の子の兄弟でショッピングに行くことはあまりないから、2人でショッピングができてとても楽しかった、ありがとう。」

と言ってくれて、私はとても嬉しかったです。家族とも、緊張していた初日より一緒に会話することが多くなり、タウンズビルと日本の違いなど色んな話を話しました。

そして、ライアン・カトリック・カレッジでは、ライアンの生徒と勉強したり、昼食を一緒に食べたりしました。ティータイムではライアンの生徒が積極的に来てくれて、お菓子の交換や話をしたりして楽しい時間を過ごすことができました。日本では、ティータイムという習慣はないので羨ましいなと思いました。

次の日、私が一番楽しみにしていたビラボン・サンクチュアリに行きました。コアラやカンガルー、ウォンバット、クロコダイルなど、日本では見ることができない動物を見たり、実際に触れ合ったりしました。

ガイドさんが分かりやすく動物の特徴や生態など教えてくれたので勉強になりました。

今回、タウンズビル市に訪問できたことは、これからの私にとって確実にプラスとなる出来事となりました。言葉に何度もつまづく事があったけれど、ホストファミリーに理解してもらえて一緒に笑い合えた時は本当に嬉しく、間違えても恥ずかしくならず積極的に会話したことは、自分への自信にもつながるものとなりました。たくさんの体験ができ、一つひとつが最高の宝物です。このような機会を与えてくださった方々、そして私を受け入れてくださったホストファミリーの方への感謝を忘れず、オーストラリアで経験したことをこれからの生活に活かし、充実した人生を送っていきたいと思います。



朝から公園に行ってバーベキューをしました。



ホストファミリーです。お父さんにプレゼントしたマリオのネクタイをつけてくれました。



滝を見に行きました。水の音などとても迫力がありました。



ホストファミリーのダニエルさんとシャンテルさんです。5日間、優しいお二人のおかげで楽しい時間を過ごすことができました。また会いに行きます！

渡辺 佳奈恵 Kanae Watanabe (ホストファミリー Chantel Burns 家)

正直、今回のこの訪問団の団長として同行しませんかとお話をいただいたときから出発するまで、不安ばかりが頭を巡っていました。私は、特に英語が得意な訳でもなく、英語圏に行くのは今回が初めてでした。そのような中で、私が団長として、団員15人を守らないといけないという責任も重く感じていました。

しかし、今回の派遣を終えた今は、「行くことができよかったです」その一言に尽きます。

タウンズビル市は、自然に囲まれたとても穏やかで美しいまちです。そして、それに比例してタウンズビルで暮らす人々の心も、とても穏やかで美しいと思いました。

現地の人々は散歩をしている時、お店の中に入るときなど、よく挨拶を交わします。私も、ホストファミリーのペットの犬と散歩をしている途中などに出会った人に、自然と自分から「Hello!」と挨拶をしていました。



ピラボン・サンクチュアリで初めてウォンバットを見ました。大きいけど顔がとても可愛らしい！！

「自分から気持ちの良い挨拶をする」このことは、世界共通のコミュニケーションツールであると感じると共に、職場だけではなく私生活においても笑顔で気持ちの良い挨拶をすることを心がけようと改めて感じさせられました。

また、ホームステイでの5日間は、私が想像していたよりも遥かに充実した毎日でした。ホストファミリーのダニエルさん・シャンテルさん夫婦には、様々な場所に連れて行っていただいたり、毎日美味しいご飯を振る舞っていただいたりと、感謝の気持ちでいっぱいです。全てがかけがえのない思い出ですが、最も心に残っているのは、8月20日です。この日は飼っているニワトリが初めて卵を産んだ日で、3人でとても喜んだこと、そして歓喜の egg dance が今でも忘れられません。

この9日間で、私は団長として団員たちの姿を常に見てきましたが、団員たちは、出発前と比べると本当に大きく成長したように思います。

滞在期間中の授業で、身振り手振りで一生懸命に現地の生徒とコミュニケーションを取っている姿や、英会話授業で発表している姿は、本当にキラキラと輝いていました。そんな団員達と過ごした日々で、私も多くのことを学ぶことができました。社会人として4年目になり、どこか保守的に物事を捉えることが多くなり始めていた私は、団員達の「自分の殻を破って挑戦しよう」という姿勢から、私も初心に戻り、様々なことに挑戦しなければならないと感じました。

私はこれからも多くの周南市民とタウンズビル市民が交流を深め、この友好関係が末永く続いていくことを願っています。そのためにも、タウンズビル市を訪れた市職員・市民の一人として、タウンズビル市の魅力を周南市民にも伝えていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の訪問を通して出会った全ての方々、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の方々、そして団員達に感謝いたします。ありがとうございました。



タウンズビル市の“映え”スポットです。



ホストファミリーの家で飼っているニワトリが初めて卵を産んだ記念日に立ち会うことができました。



たくさんお世話になったスーザンさんと。プレゼントしたスカーフを巻いてくださいました！

Fantastic Memories★





シドニー観光(ハーバーブリッジを望む)



シドニー観光(ボンダイビーチ)



タウンズビル空港出発



ライアン・カトリック・カレッジでのお別れ会

タウンズビル市訪問までの事前説明会や帰国後の報告会の様子を紹介します！！

事前説明会（6月24日、7月8日、22日）



事前説明会では、お別れ会での出し物やグループ学習のテーマを決めました。出し物は、TWICEの「TT」とAKB48の「365日の紙飛行機」を歌って踊ることになり、各自、家で練習しました。グループ学習では3グループに分かれ、それぞれ「伝統・文化」「経済」「教育」について、周南市とタウンズビル市の違いを調べることになり、事前に周南市のことを調べたり、タウンズビル市のことについて予想したりしました。また、ホームステイの心構えや語学研修なども行いました。

壮行会・最終説明会（7月29日）



壮行会では、市長や団員が在籍する学校の先生方、保護者のみなさんの前で、1人ずつ決意発表をしました。その後の最終説明会では、保護者のみなさんの



前で、お別れ会の出し物を披露しました。照れている団員も多くいましたが、前回の練習の時より上達しており、家での練習の成果が出ていました。

事後研修会（8月21日）



帰国後は、帰国報告会に向けて、グループ学習のテーマについて現地で調べたことをまとめました。ホストファミリーに質問したり、写真



を撮ってくるなどしてしっかり調査してきたようで、限られた時間の中でまとめを作成し、発表の練習をすることができました。

Townsville Airport



発行 周南市 地域振興部 観光交流課

〒745-8655

山口県周南市岐山通1-1

TEL(0834)22-8372

FAX(0834)22-8428

しゅう ニャン し
周南市